

北九州市長

北橋 健治

Kenji Kitahashi



フジコー技報15号によせて

株式会社フジコーにおかれましては、日ごろより溶接・溶射・特殊クラッドなどの複合技術、溶接材料、産業機械の開発をはじめとするさまざまな技術開発に熱心に取り組まれ、その技術力を核として発展を続ける市内を代表する企業であり、貴社の取り組みに対し深く敬意を表します。

さて、最近の北九州地域の経済は、好調な輸出を背景に高操業が続き、緩やかな拡大を続けております。この好調さを大きく牽引しているのは製造業です。本市には鉄鋼や化学、機械、窯業などの歴史のある産業や、自動車、半導体といった成長著しい産業など、さまざまな分野の企業が市内及び周辺地域に数多く立地しており、まさに日本を代表するものづくり産業の集積地であると言えます。また、「ものづくりのDNA」がしっかりと根付いている地域といっても過言ではございません。今後、北九州市をさらに発展させるため、ものづくり産業は不可欠であると考えています。

そのような考えから、本市では、産業を支える知的基盤の充実や産業人材の育成、次世代産業の創出、企業誘致などを進めるとともに、積極的に事業革新に取り組む地域企業を支援し、地域のイノベーションサイクル（新しいモノやサービスを次々と創り出す仕組み）を生み出し、自立した地域経済への転換を目指し、次の5つの戦略により、地域企業の支援を推進しています。

戦略Ⅰ 産業を支える知的基盤の充実・強化

優秀な研究者のさらなる集積による学術研究都市を中心とする知的基盤を充実・強化し、知的基盤が生み出す成果の積極的な活用と高度産業技術人材の育成を推進します。

戦略Ⅱ 「知」を活用した次世代産業の育成

「北九州市科学技術振興指針」や「北九州市モノづくり産業振興プラン」に基づき、「半導体」「環境」「ロボット」「情報」などの次世代産業の創

出・育成やベンチャー企業の創業・成長支援を行い、新たなリーディング産業の集積を図ります。

戦略Ⅲ 活力ある地域産業の振興

事業の拡大や自動車などの新分野への進出、国際ビジネスの展開など、積極的に経営革新や技術革新に取り組む製造業を中心とした中小企業の競争力強化への支援を行うとともに、中堅・大企業の新事業進出を促進します。

また、にぎわいのあるまちづくりの推進や中小小売業の振興に取り組み、活力ある地域産業の振興を図ります。

戦略Ⅳ 戦略的な企業誘致の推進

「企業誘致戦略」に基づき、立地インセンティブや誘致体制の強化を図り、「自動車」「半導体」「情報家電」などの重点誘致産業の集積促進を図ります。

戦略Ⅴ 雇用開発と人材育成の推進

若年者の雇用環境や団塊世代の大量退職（2007年問題）を踏まえ、「若者ワークプラザ北九州」を拠点にした総合的な若年者雇用対策を推進するとともに、高年齢者就業支援センターにおいて関係機関と連携して中高年齢者等への就業支援を実施し、雇用環境の改善を図ります。また、主に若年者を対象に、起業ニーズに応じた人材育成を推進します。

本市では、先に挙げました戦略に基づき、地域においてイノベーションを創出するため、地域企業の技術革新に関する取り組みを積極的に支援しております。株式会社フジコーと本市との関係におきましても技術開発に関するかかわりが特に多く、地域新生コンソーシアム研究開発事業（経済産業省）をはじめとする国の補助事業採択に向けたコーディネート活動等により支援させていただいております。また、本市と財団法人北九州産業学術推進機構で実施している「中小企業産学官連

携研究開発事業」においても、数多くの取り組みが採択されております。

○「省エネルギー型超音速溶射装置の開発」(平成13、14年度)

素材・溶射材料の融点等、特性に応じた加熱燃焼条件を酸素含有量の異なるガス組成と灯油量を変化させる制御によって国産初の省エネルギー型超音速溶射装置の開発。

○「ナノ粉末と低温高速溶射によるアナターゼ型TiO₂皮膜技術開発」(平成15、16年度)

防汚・抗菌・脱臭等の作用を発揮し、今後急速な成長が期待される高性能アナターゼ型酸化チタン光触媒の表面処理膜を大気雰囲気中、かつ低コストで高速・大面積を形成する溶射技術の開発。

○「抗菌金属担持可視光応答型TiO₂溶射技術を用いた高性能抗菌製品の技術開発」(平成19年8月)

蛍光灯照明下で高い抗菌効果を発揮する可視光応答型光触媒に抗菌金属元素を担持したハイブリッド溶射皮膜を開発し、その抗菌性能評価・フィールド検証を行う。さらにそれを用いた抗菌製品を開発し、その生産技術の確立。

これらの技術開発は、いずれも大学や研究機関と連携し行われたもので、既に施工実績も出ており、さらなる受注を期待するとともに、新たなテーマについても今後の成果に期待するところでございます。それと同時に、このような産学官連携での共同研究開発による技術革新が研究開発だけで終わるのではなく、自社の経営革新にまでつながるような地域企業が持続的に創出されるよう、地域企業の模範としての役割も株式会社フジコーに大いに期待しています。

本市においては、国際的な競争時代に持続的に発展を続けることのできる「力強い産業都市」、未来を担う若者が生き生きと働くことのできる「可能性に満ちた産業都市」を実現するため、平成19年7月に「北九州市産業雇用戦略本部」を設置し、産業振興・雇用拡大に関する産業雇用戦略の策定を進めております。元気で可能性に満ちた産業都市を実現するために、戦略に強い想いを込め、一言一句疎かにせず取り組んでまいりますので、皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、株式会社フジコーの今後のますますのご発展を祈念いたしまして、挨拶いたします。

【経歴書】

きたはし けんじ
北 橋 健 治
昭和28年3月19日生

【学歴】

東京大学法学部(昭和53年3月卒業)

【略歴】

昭和61年	7月	衆議院議員初当選
平成6年	5月	大蔵政務次官
平成8年	12月	運輸委員会筆頭理事
平成10年	8月	衆議院環境委員長
平成11年	11月	大蔵委員会筆頭理事
平成17年	11月	地方制度調査会委員
平成18年	3月	行政改革特別委員会筆頭理事
平成19年	2月20日	北九州市長